様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	大阪スクールオブミュージック専門学校
設置者名	学校法人コミュニケーションアート

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
文化・教養専門課程	プロミュージシャン&テクノロジー科(昼間Ⅰ部)	夜・通信	16 単位(480 時間)	13 単位(320 時間)	
	プロミュージシャン&テクノロジー科(昼間Ⅱ部)	夜・通信	16 単位(480 時間)	13 単位(320 時間)	
	カレッジ音楽科(昼間Ⅰ部)	夜・通信	10 単位(300 時間)	10 単位(240 時間)	
	商業音楽科(昼間Ⅰ部)	夜・通信	8 単位(240 時間)	7 単位(160 時間)	

（備考）
プロミュージシャン&テクノロジー科（昼間Ⅰ部・Ⅱ部）はスーパーeエンターテイメント科（昼間Ⅰ部・Ⅱ部）より2026年4月学科名称変更。プロミュージシャン＆テクノロジー科（1年生）については単位制を採用。
その他の学科においては、（　）内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条（経過措置）」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を併記している。
商業音楽科(昼間Ⅰ部)は2026年4月より募集停止。現在2学年のみが在籍。

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	大阪スクールオブミュージック専門学校
設置者名	学校法人コミュニケーションアート

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	別学校法人　理事 （H17.4.1～）	R6.6.1～R11 年度の定時評議員会の終結の時	組織運営体制へのチェック機能
非常勤	団体役員 （H28.4.1～）	R1.5.27～R11 年度の定時評議員会の終結の時	組織運営体制へのチェック機能
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪スクールオブミュージック専門学校
設置者名	学校法人コミュニケーションアート

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて原案を作成の上、学校長が決定する。 学生便覧にて、授業開始前の４月上旬に学生に説明した上、学校ホームページにて公表。

授業計画書の公表方法	https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 全学科、各学期末の定期試験(実技・筆記・レポート等)の成績により学習成果の評価を行い、単位認定している。 Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄを合格とし、Ｆを不合格とする。 点数 ９０点以上をＡ、８９点～８０点をＢ、７９点～７０点をＣ、６９点～６０点をＤ評価とし、５９点以下はＦ評価（不合格）とする。各科目について出席率、授業態度、臨時および定期試験の成績、レポート並びに課題の成績を総合的に勘案し、５段階評価とする。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） 既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。 評価基準は下記の通り 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 100～90 点：S(4.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 89～80 点：A(3.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 79～70 点：B(2.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 69～60 点：C(1.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 59～0 点 ：D(0.0) 不合格 上記の指標を学生便覧にて学生に公表。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定のうえ、認定している。 卒業の判定基準は以下の通りとする。 ・規定の科目を履修し卒業に必要な単位を取得していること。 上記に該当する者は卒業判定会議により最終決定する。上記を満たさない者は卒業保留となる。卒業に必要な単位を修得している場合であっても、学費が完納されていない場合は卒業認定されない。 ・卒業年度の 3 月 31 日を超え、卒業単位未修得による卒業保留の場合、同年 4 月 1 日からの次年度において、8 月 31 日までに卒業認定されない場合は、入学年の 3 月 31 日付で 除籍となる。 なお、同年 4 月 1 日以降は規定の在学期間を超えるため、学生としての身分はなく、よって学生証は発行されない。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	大阪スクールオブミュージック専門学校
設置者名	学校法人コミュニケーションアート

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html
財産目録	https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html
事業報告書	https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html
監事による監査報告（書）	https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養専門課程	プロミュージシャン&テクノロジー科（昼間Ⅰ部）		○

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124単位（3600単位時間）	0単位	124単位（2700単位時間	0単位	0単位	0単位
			124単位（2700単位時間）				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	47人	4人	2人	18人	20人

※学校教育法施行規則等改正の附則第２条（経過措置）に基づき、「単位時間」を用いている。

※学科名称変更において、学年進行のため現在２年生、３年生、４年生のみが在籍。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて原案を作成の上、学校長が決定する。 学生便覧にて、授業開始前の４月上旬に学生に説明した上、学校ホームページにて公表。
成績評価の基準・方法
（概要）既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。 評価基準は下記の通り 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 100～90 点：S(4.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 89～80 点：A(3.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 79～70 点：B(2.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 69～60 点：C(1.0) 合格 出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 59～0 点 ：D(0.0) 不合格 上記の指標を学生便覧にて学生に公表。
卒業・進級の認定基準

（概要）全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定の うえ、認定する。

学修支援等

（概要）スチューデントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	10 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）

（主な就職、業界等）レコード会社、事務所・プロダクション等

（就職指導内容）
就職対策の授業、履歴書・プロフィールシートの作成、校内での企業説明会「合同企業説明会・新人発掘プレゼンテーション」など

（主な学修成果（資格・検定等））

（備考）（任意記載事項）
2026 年 4 月からスーパーe エンターテイメント科より学科名称変更。
卒業後の就職希望者は決定まで卒後支援を行う。卒業後の転職活動もサポートしている。

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
47 人	1 人	2.1%

（中途退学の主な理由）
学校生活不適応、金銭的理由など

（中退防止・中退者支援のための取組）
欠席者の早期徹底フォロー、学費分割、延納制度、保護者面談、三者面談、補習など

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養専門課程	プロミュージシャン&テクノロジー科（昼間Ⅱ部）		○

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	124単位（3600単位時間）	0単位	124単位（2700単位時間）	0単位	0単位	0単位
			124単位(2700単位時間)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
260人	160人	6人	2人	18人	20人

※学校教育法施行規則等改正の附則第２条（経過措置）に基づき、「単位時間」を用いている。
※学科名称変更において、学年進行のため現在２年生、３年生、４年生のみが在籍。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて原案を作成の上、学校長が決定する。 学生便覧にて、授業開始前の４月上旬に学生に説明した上、学校ホームページにて公表。

成績評価の基準・方法

（概要）既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。
評価基準は下記の通り
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 100～90 点：S(4.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 89～80 点：A(3.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 79～70 点：B(2.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 69～60 点：C(1.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 59～0 点 ：D(0.0) 不合格
上記の指標を学生便覧にて学生に公表。

卒業・進級の認定基準

（概要）全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定の うえ、認定する。

学修支援等

（概要）スチューデントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
14人（100%）	0人（0%）	2人（14.3%）	12人（85.7%）

（主な就職、業界等）コンサートプロモーター、レコード会社等

（就職指導内容） 就職対策の授業、履歴書・プロフィールシートの作成、校内での企業説明会「合同企業説明会・新人発掘プレゼンテーション」など
（主な学修成果（資格・検定等））
（備考）（任意記載事項） 2026 年 4 月からスーパーe エンターテイメント科より学科名称変更。 所属契約を希望している卒業生は卒業後もデビュー活動中として一時的な仕事に就き活動を行っている。活動については卒業後の支援を行っている。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
113 人	3 人	2.7%
（中途退学の主な理由） 病気など		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席者の早期徹底フォロー、学費分割、延納制度、保護者面談、三者面談、補習など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養 専門課程	カレッジ音楽科 (昼間Ⅰ部)	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	93単位 (2700単位時間)	0単位	93単位 (1800単位時間)	0単位	0単位	0単位
			93単位(1800単位時間)				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
260人	217人	10人	2人	9人	11人

※学校教育法施行規則等改正の附則第２条（経過措置）に基づき、「単位時間」を用いている。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて原案を作成の上、学校長が決定する。 学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明した上、学校ホームページにて公表。

成績評価の基準・方法

（概要）既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。
評価基準は下記の通り
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 100～90 点：S(4.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 89～80 点：A(3.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 79～70 点：B(2.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 69～60 点：C(1.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 59～0 点 ：D(0.0) 不合格
上記の指標を学生便覧にて学生に公表。

卒業・進級の認定基準

（概要）全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定の うえ、認定している。

学修支援等

（概要）スチューデントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
60人 (100%)	0人 (0%)	20人 (33.3%)	40人 (66.7%)

（主な就職、業界等）事務所・プロダクション、作曲家事務所、映像制作会社等

（就職指導内容） 就職対策の授業、履歴書・プロフィールシートの作成、校内での企業 説明会「合同企業説明会・新人発掘プレゼンテーション」など
（主な学修成果（資格・検定等））
（備考）（任意記載事項） （任意記載事項）作家契約を希望している卒業生は卒業後もデビュー活動中として一時的な仕事に就き活動を行っている。活動については卒業後の支援を行っている。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
181 人	8 人	4.4%
（中途退学の主な理由） 学生生活不適合、体調不良、進路変更、病気、金銭的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席者の早期徹底フォロー、学費分割、延納制度、保護者面談、三者面談、補習など		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養 専門課程	商業音楽科 （昼間Ⅰ部）	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62単位 （1800単位時間）	0単位	31単位 （900単位時間）	0単位	0単位	0単位
			31単位（900単位時間）				

学生総定員数	学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	70人	0人	2人	9人	11人

※学校教育法施行規則等改正の附則第２条（経過措置）に基づき、「単位時間」を用いている。
※2026年4月より募集停止。現在2学年のみが在籍。

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）全学科、教育課程編成委員会からのご意見も参考に、教務部にて原案を作成の上、学校長が決定する。 学生便覧にて、授業開始前の4月上旬に学生に説明した上、学校ホームページにて公表。

成績評価の基準・方法

（概要）既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。
評価基準は下記の通り
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 100～90 点：S(4.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 89～80 点：A(3.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 79～70 点：B(2.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 69～60 点：C(1.0) 合格
出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 59～0 点 ：D(0.0) 不合格
上記の指標を学生便覧にて学生に公表。

卒業・進級の認定基準

（概要）全学科、学生便覧にて、卒業認定要件を示し、卒業認定会議で学校長の確認・決定の うえ、認定している。

学修支援等

（概要）スチューデントサービスセンターを設け、専門カウンセラーを配置し、学修に対して困難な学生をサポートしている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
115人 （100%）	0人 （ 0%）	58人 （ 50.4%）	57人 （ 49.6%）

（主な就職、業界等）音響会社、照明会社、舞台制作会社、事務所・プロダクション等

（就職指導内容）就職対策の授業、履歴書・プロフィールシートの作成、校内での企業説明会「合同企業説明会・新人発掘プレゼンテーション」など
（主な学修成果（資格・検定等））
（備考）（任意記載事項） 2026 年 4 月募集停止。現在 2 学年のみが在籍。 音楽活動を希望している卒業生は卒業後もデビュー活動中として一時的な仕事に就き活動を行っている。活動については卒業後の支援を行っている。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
177 人	9 人	5.1%
（中途退学の主な理由） 学生生活不適合、進路変更、病気・治療、経済的理由など		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席者の早期徹底フォロー、学費分割、延納制度、保護者面談、三者面談、補習など		

②学校単位の情報

ａ）「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 （年間）	その他	備考（任意記載事項）
プロミュージシャン&テクノロジー科 （昼間Ⅰ部）	150,000 円	840,000 円	745,800 円	2026 年 4 月よりスーパーe エンターテイメント科（昼間Ⅰ部）より学科名称変更
プロミュージシャン&テクノロジー科 （昼間Ⅱ部）	150,000 円	840,000 円	745,800 円	2026 年 4 月よりスーパーe エンターテイメント科（昼間Ⅱ部）より学科名称変更
カレッジ音楽科 （昼間Ⅱ部）	150,000 円	840,000 円	745,800 円	
商業音楽科	0 円	0 円	0 円	2026 年度募集停止 1 年生在籍なし
修学支援（任意記載事項）				
納入スケジュールでの学費納入が難しい方に対し、延納、分納措置を行っている。				

ｂ）学校評価

自己点検評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）
自己点検自己評価を行い、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次 年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。（教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育. 環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守 等）
第三者評価の委員

所属	任期	種別
株式会社アーヴィング	2015 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 （任期更新）	卒業生
保護者代表	2025 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 （任期更新）	保護者
四條畷学園高等学校	2017 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 （任期更新）	高等学校関係者
大阪市民生委員児童委員連盟	2015 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日 （任期終了）	地域関係者
大阪市民生委員児童委員協議会	2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 （新規就任）	地域関係者
吉本興業株式会社	2020 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日 （任期終了）	業界関係者

株式会社よしもとアカデミー	2026 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 （新規就任）	業界関係者
ヒビノ株式会社	2024 年 4 月 1 日～ 2027 年 3 月 31 日 （任期更新）	業界関係者
第三者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.osm.ac.jp/school/public_info/index.html		
（備考）		
第三者評価は実施しておらず、評価の基本方針および評価の委員については学校関係者評価の内容を記載している。		

c）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.osm.ac.jp/ ホームページの記載、学校パンフレット・学生募集要項など郵送

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310001414
学校名（○○大学 等）	大阪スクールオブミュージック専門学校
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人コミュニケーションアート

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		145人（ 61 ）人	133人（ 57 ）人	146人（ 62 ）人
内訳	第Ⅰ区分	66人	57人	
	（うち多子世帯）	（ 16人）	（ 16人）	
	第Ⅱ区分	25人	30人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅲ区分	17人	- 人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	12人	- 人	
	区分外（多子世帯）	25人	26人	
家計急変による 支援対象者（年間）				- 人（ 0 ）人
合計（年間）				148人（ 62 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	- 人	0人	- 人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	- 人	- 人	- 人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	- 人	0人	- 人
計	- 人	- 人	- 人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	- 人	前半期	0人	後半期	0人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	0人	0人	- 人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	- 人	0人	- 人
ＧＰＡ等が下位４分の１	12人	0人	- 人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	35人	- 人	17人
計	41人	- 人	23人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。